

八学光星 男子初V

女子三沢商決勝で涙

バスケット

全国高校選抜青森県予選
全国高校バスケットボー
ル選抜優勝大会青森県予選

最終日は30日、十和田市総
合体育センターで男女の準
決勝、決勝を行った。男子

は八学光星が弘前美を下し
て初V。女子は柴田が三沢
商に競り勝ち、3連覇を飾
った。

優勝した男子の八学光星
と女子の柴田は、12月23日
から東京体育館で開かれる

選抜優勝大会(ウインター
カップ)に出場する。

男子
▽準決勝
弘前美 107-85 東 義
八学光星 68-57 工大 一

八学光星 82-25 弘前美
19-15 18-72

女子
▽準決勝
三沢商 20-14 柴田 25-18



【男子決勝・八学光星 弘前美】第2クォーター、光星は佐々木匠(青4)が決めて27-15とリードを広げる。十和田市総合体育センター

強い決意“壁”破る 光星

光星

昨年の県高総体、全国高校選抜優勝大会県予選、今夏の県高総体と、3度決勝に進みながら、逃してきた全国大会への切符。試合終了のブザーが響き、初優勝が決まった瞬間、光星のメンバー全員が両手で顔を覆い、その場に崩れた。悲願達成の歓喜に、あふれる涙をこぼされなかった。

3年のレギュラーのうち佐々木匠主将、駒沢颯ら4人は中学時代に県選抜で活躍。「みんなで光星に行き、全国大会に出よう」と同じ門をたたき、勝てるチームを目指し練習

を重ねた。4人を主力に高い戦力を誇るチームへと成長したものの、幾度も決勝の壁にはね返された。特に、決勝の相手・弘前美には昨年も決勝で敗れ、今夏の県高総体でも屈していた。

「なんとしても勝ち、ウインターカップに出る」。選手たちは強い気持ちで結束し、決勝に臨んだ。決意は序盤の猛攻に表れた。「負けてきた悔しさを胸に、徹底して走り込んだ」と佐々木主将。駒沢と共に果敢にインサイドを攻めて点を重

ね、主導権を握った。ただ、相手も粘り強かった。堅い守りからリズムをつくられ、第3クォーター(Q)には1点差まで詰められた。

絶体絶命のピンチに奮起したのは駒沢だった。エースとして打開する。2人のマークを物ともせず、1人で30点以上を挙げた。ようやくつかんだ初の栄冠。佐々木彰彦コーチは「大一番でなかなかみ合わなかったが、最後に力を出し切ってくれた」と教え子の健闘に目を細めた。

次は待ち望んだ大舞台。佐々木主将は「自分たちの力がどこまで通用するのか楽しみ」と胸を躍らせていた。

(林泰輔)